

I E I C E

The Institute of Electronics, Information  
and Communication Engineers  
April No.

100

## NEWS LETTER

The Electronics Society



\*\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*\*

## 巻頭言

… 田中嘉津夫 (岐阜大学)

おめでとうございます — 平成14年度 (第65回) 学術奨励賞受賞者から —

## 学術奨励賞受賞記

… 富田 勲 (日本電信電話株式会社)

学生海外渡航援助費をいただいて

… 肖 海 (佐賀大学)

\*\*\*\*\*

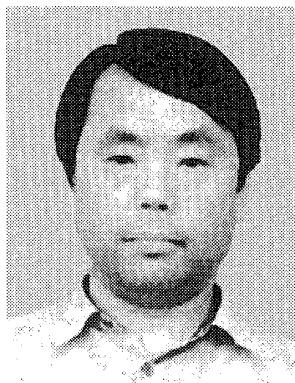
## 巻頭言

“いつ研究するんや!”

電磁界理論研究専門委員長  
岐阜大学

田中 嘉津夫

しばらく研究室に出てこない学生をつかまえて、大学に出てこない理由を正すと、アルバイト、体調不良、就職活動、海外旅行(!)・・・と陳腐な言い訳をならべる。思わず「じゃあああ、君はいつ研究するんや!」と叫ぼうとしたら、「そういうおまえは、いつ研究するんや?」



という声が頭の中からして学生への怒号を飲み込んでしまった。筆者が駆け出しの頃、参加する電磁界理論関係の研究会は、秋のシンポジウム、春の全国大会、3年おきの国内国際会議、程度であった。来年、新しいネタを持って集まりましょう、と秋のシンポジウムで別れたのもである。

昨今の国際会議開催数の急増は凄まじい。米国IEEE関係、ヨーロッパ、特に最近増えてきた、日中、日韓、汎太平洋、関連国際会議だけで一年に数回という数である。先日も韓国の研究者と話してしていたら、彼が関係する国際会議はほぼ毎月、と顔をしかめていた。加えて国内学会からも、論文特集号、ワークショップ、講習会、という会員サービスをせかされる。さらに日本が開催する国際会議も増えていてその準備作業も大変である。研究者として脂の乗る中堅研究者が各種準備委員会で多忙を極めるのも本末転倒ではないだろうか? いつ研究できるのか不思議である。「いつ研究するんや」と筆者が飲み込んだ怒鳴り声は学

生にではなく、自分へのぼやきなのである。

参加しなければよいが、筆者のように研究会責任者だとそうも行かない。また、ライバルが国際会議で飛び回っているという噂を聞くと、研究室でじっとしては世界の最新情報からオチこばれないか、と不安になるのも研究者心理である。こんな曲芸が可能になったのも昨今の IT、PC 技術の発展のおかげである。タイプライタと航空郵便ではとても不可能だった芸当である。その昔、教育機器を PR するテレビ番組で、アナウンサーが解説者に「こんな機器ができれば、学校の先生はすることがなくなってしまいますね？」と尋ねたところ、解説者が「いや、先生は空いた時間を、生徒の個性に合うきめ細かな指導に使えるんようになるんですよ」と答えるのを思いだした。現実にはそんなうまい話にはならず空いた時間は雑用に回っただけで、学級崩壊防止にはならなかった。IT 技術で煩雑な文書作業が楽になって、空いた時間を研究に回せたら学会・研究会・国際会議関係の雑用がやたらと増えただけである。

国際会議参加での、国際交流、情報収集、研究へのインセンティブ、というメリットを否定しない。筆者も何度も経験がある。しかし、世界中から最新の情報を集めれば良い研究ができるかといえは疑問である。自分のオリジナルな研究基盤を持っていなければ、新しいアイデアを取り込んでも単に外国の二番煎じ、三番煎じになるだけである。電磁界理論研究会の存在意義の一つは如何に基礎的でオリジナルなアイデアを日本から発信できるかであろう。研究会でもしばしばトピックになる PBG (Photonic Band Gap) 導波路や FDTD 法の PML (Perfect Matched Layer) というアイデアも残念ながら日本から発信されなかった。私見を言わせてもらえば、このようなアイデアが日本から提案されても不思議ではなかったと思う。研究会にはそれくらいの力量を持った研究者が数多く参加していたし、現在も参加している。

先日、200 億円特許料判決で研究者社会に衝撃を与えた中村修二教授の経験談によれば、論文、会議、電話、すべて無視して研究に没頭してはじめて青色 LED は開発できた。オリジナル研究の基本は、アイデアを考え、深く研究室に潜沈し、試行錯誤を繰り返す、長く考え続けること、以外に方法があるとは思えない。おまえは何が言いたいのか、というと「研究させてくれえ！」

略歴：田中嘉津夫

昭和 45 年大阪大学・工・通信卒・昭和 50 年同大学院博士課程了・岐阜大学に勤務。相対論的電磁波論、医用放射線画像工学、光回路用 CAD・シミュレーションの研究に従事。現在岐阜大学工学部教授、電磁界理論研究専門委員会委員長。著書「デジタル放射線画像」(分担執筆)、「計算電磁気学」(分担執筆)など。

\*\*\*\*\*

おめでとうございます

平成 14 年度学術奨励賞受賞者から

学術奨励賞受賞記  
日本電信電話株式会社  
NTT フォトニクス研究所

富田 勲

この度は伝統ある学術奨励賞を授与頂き、大変光栄に思います。本研究を遂行するにあたり、ご指導頂きました三条広明研究主任、山田英一主任研究員、吉國裕三グループリーダー、蓮見裕二部長、および関係者の皆様に深

